

環境パフォーマンスの改善

製品リサイクル

インパース・マニュファクチャリングを実現した
「写ルンです」循環生産自動化工場

1986年に富士フィルムが世界に先駆けて開発したレンズ付フィルム「写ルンです」は、その急激な市場拡大に対応してリユース・リサイクル技術を進化させてきました。

1998年にはインパース・マニュファクチャリング(逆生産)の考え方を実践した循環生産自動化工場の稼働を開始しました。



設計から始まるリユース・リサイクル

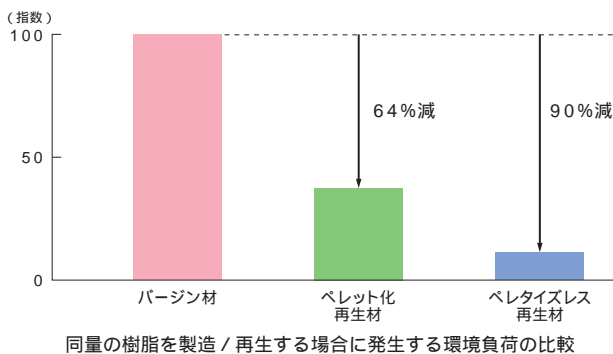
・リユースを前提とした、ユニット化設計

「写ルンです」の設計段階で、ストロボに関連した部品やシャッター、レンズ等のメカ部分を、それぞれユニット化することにより、リユースのための分解性を向上させました。

ペレタイズレス方式で樹脂再生の効率アップ

「写ルンです」の前カパー等、リユースできない部品は従来、破碎後にペレット化してから成形していましたが、ペレット化に要する環境負荷を低減するため、破碎状態で直接成形するペレタイズレス方式を開発しました。破碎した樹脂から異物を取り除き、温水気泡洗浄することで、そのまま成形材料として使用しています。

樹脂再生の環境負荷低減 (CO₂排出量)



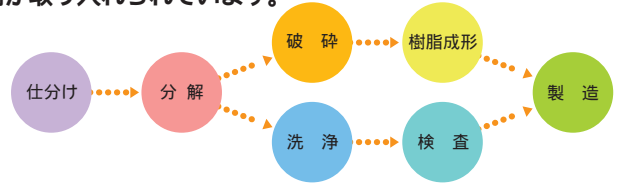
ペレット化再生材



ペレタイズレス再生材

完全自動化によるリユース・リサイクル

循環生産自動化工場では資源再活用に止まらず、「写ルンです」の品質保証を第一に考え、仕分けから分解、検査を経て、製造に至る完全自動化ラインのあらゆる面で、画期的な新技術が取り入れられています。



クローズドループリサイクル

「写ルンです」のユーザーが、撮影後に現像のために写真店に出した「写ルンです」は、一度各地区の総合ラボに集められます。その後、製品配送の戻り便を活用して「写ルンです」の循環生産自動化工場へ集結することにより、確実な回収システムが可能となりました。

資源有効利用促進法に基づく、包装材料への識別マーク表示

2000年4月に容器包装リサイクル法が全面施行され、一般家庭などから廃棄される可能性のある製品の包装には、紙製容器包装、プラスチック製容器包装の識別マークを表示することが義務付けられました。富士フィルムでは、お客様に解りやすいように各業界で統一した表示をするという経済産業省の指導に基づき、感光材料工業会など、各業界の表示基準に添って対象製品の容器包装への識別マーク表示を実施しました。



100%リサイクル可能なミニラボ設計

カラーフィルムの処理機器ミニラボは、現在日本全国で約26,000台稼働していますが、技術進歩に応じて平均して6~7年で新規品に置き換わっています。その中であって、富士フィルムは、ミニラボの設計段階から省資源・再資源化設計を推進し、現在98%再資源化可能な設計を100%可能にするべく努力しています。

「ピクトロ使用済みドナー」回収リサイクルシステム

ピクトロ機器はデジタルプリンターおよびカラー写真複写機の総称ですが、「ピクトロ使用済みドナー」はその材料で、いわゆる写真の「ネガ」に相当します。

富士フィルムでは、銀塩感光材料である「ピクトロ使用済みドナー」を回収し、銀を回収して製品銀としてリサイクルする回収リサイクルシステムを確立しています。